

海外インターンシップや 産学連携のキャリアゼミが 社会人としての素養を磨く

2 015年に50周年を迎える本学は、その使命として「チャレンジ精神旺盛な意欲ある学生を育てること」などを、目指す大学像として「学生成長率ナンバーワンの大学」などを掲げています。若者の意欲、成長力には本心に驚かされます。学生たちは、入学時は心もとなかったTOEIC®の成績を留学後に倍以上に伸ばします。英語圏やアジアなど海外インターンシップに参加する学生も増えてきました。背景には、本学が海外の大学と協定を結び、現地のインターンシップに参加できることを一つの方針としていることもあります。語学研修に加え、現地企業での実習を経験することが進路決定に大きく影響すると思います。

2つのキャンパスにはネイティブスピーカーと日常的に触れあえる「イングリッシュスペース」を設けています。個人レッスンも無料で、学生に好評です。今年度からは中国語と韓国語についても同様のスペースを設け、日本人学生と留学生の交流の場にもなっています。

こうした学生の意欲や自主性に期待して、14年秋に完成予定の50周年記念館には、学生がグループディスカッションをしたり、教員と自由に議論をしたりする「スチューデントコモンズ」を設置する計画です。

本学の美学教育を象徴する「キャリアアゼミ」では、企業や地域と連携したさまざまな活動に取り組んでいます。例えば国際観光学部では、外国人旅行者

向けの観光案内所を新今宮に設置しています。また、経営情報学部では、淡路島の老舗食品メーカーと連携しマーケティングに取り組んでいます。こうした活動を通じて専門知識を深めるとともに、仲間意識や社会人としての素養も磨かれています。

「キャンパスベンチャーグランプリ」「ビジネスプランコンテスト」「社会人基礎力養成グランプリ」など、各種のビジネス系コンテストで好成績を収める学生も増えています。

本学が就職に強い理由を問われれば、キャリアセンターの3つの柱（キャリア教育、資格支援、就職活動支援）や、理事や教職員による積極的な企業開拓、データを駆使した教務システムなど、さまざまな理由を挙げることであります。ただ、就職のために直接どんな支援をしているかという以前に、インターンシップやキャリアアゼミを含め、日常的に学習意欲を育んでいるからこそだと実感しています。日頃の教育が漢方薬のようにじっくり効いているのです。意欲と自信こそ成長の源。学生が頑張る、先生方もいい指導をしてあげて、こうした日々の努力が積み重なって、いい就職につながっていると確信しています。

阪南大学 学長 辰巳浅嗣



【学長プロフィール】たつみ・あさつぐ●1943年生まれ。関西大学法学部卒業。同大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学。法学博士（関西大学）。阪南大学国際コミュニケーション学部教授、同学部長などを経て2009年より現職。

【大学プロフィール】1965年開学。流通学部、経済学部、経営情報学部、国際コミュニケーション学部、国際観光学部の5学部5学科。